乍憚口演

益御機嫌能被遊御座恐悦至極ニ奉存候随而私
見世之儀御贔屓御蔭を以年増繁昌仕候段偏ニ
難有仕合ニ奉存候依之此度御口取菓子別ニ新製致し
諸君子様方の思召を入候品々を出し名ある花の御詩料も
より取よく見て芳と云ふ御印せ茶はいかを文精製仕品の
あきハ金のとしちるの板屋のゆき ぬる廉直にてこれ
万歳も目出度の馬鞍ら帰 吾妻ゆんちう 江戸の花まつの
笠の一かん牡丹打物の柏子本より物のゆかしき雛 姉ようかん
鼓の調べ きらきら 彼ア物なる唐錦山科の出る祇園と命ぞ
こちらも売出しまする橋や名所ある江戸のまいれ中け 天ハ二千種の御
仮宅大江戸の三四つも清茶とバ挽ぬ煎茶の口取笹だんご
より笹ぞこの折よつわざき水吞菓子おもきざる品を極上製
仕候上ハ殊更御得意様方へ嘘ハ漬られぬ舌三寸は
口中にて此風味こそよく御風聴なれ下されかつぎ々御利向
繁昌ちらふの其本ニ口中で涼き蝉の羽のことよ寿上
こととはよかりて　秋長堂の
名女とこみの二月や雪白の
風味　三千世界其菓子の物ぞ

右外御進物御折詰御継物御好次第仕立上申候

南傳馬町三丁目
若林源蟠樹